みんなの広場

Tokorozawa ものしりウォーキング ⑱ 堀之内・力石（ちから いし）

三ヶ島地区に堀之内という地名があります。地名の由来については定かではありませんが、同じ地名が山口地区にもあり、そこには中世武士の館があったことが知られています。

重さの刻まれた力石

ところで、堀之内には三ヶ島地区を一望できる景勝地・比良（ひら）の丘があります。その北側の麓（ふもと）に三ヶ島第四区自治会集会所があり、駐車場の脇には「力石」が展示されています（下の写真）。以前は北側の住宅地の中にあり、１年ほど前に現在の場所に移されました。

力石は、かつて村のお祭りやお日待（ひまつ）ち講などの際に、力自慢の若者たちが力持ちを競うために使われた俵型の石です。堀之内の力石は、長さが90センチメートル、高さは26センチメートル、幅が36センチメートルの大きさで、石の表面に微かに「二十八〆（貫）」と刻まれているのが確認できます。28貫は重さのことで、約105キログラムになります。

力石は、地域の神社・寺院や堂庵（どうあん）など、人々が集まる場所に残されていることが多く、堀之内の力石も、もとはそうした場所にあったものと思われます。通常は１か所で３～６個はあったと考えられます。また、大抵は重さが刻まれていて、ときには年代やその石を持ち上げた人の名前が刻まれていることもあります。所沢市内では今のところ27個が確認されています。

三ヶ島地区では、この堀之内以外に三ヶ島１丁目の八幡神社境内に３つ残されていて、重さはそれぞれ27貫200匁（もんめ）（約102キログラム）、36貫（約135キログラム）、44貫（約165キログラム）です。堀之内に残されている力石は、重さはさほどでもありませんが、平たく長いのが特徴といえます。

力石の起源は、「石占（いしうら）」、すなわち石を使った占いにあるという説があります。石を持ち上げることで１年間の豊凶や事の成否が占われたのだといいます。

力くらべは、昭和に入ってから行われなくなりましたが、今日のような娯楽のない時代でしたから、地域の人々にとって格好のコミュニケーションの場となったことでしょう。

堀之内の力石

▲今年満100歳以上を迎えるお年寄り宅を訪ね、長年の労苦をねぎらいました。市長長寿者表敬訪問。
９月８日(土)／緑町・下島　節さん宅

▲さつま芋に関する座談会や往時の栽培方法の見学を通し、始作者・吉田弥右衛門さんをしのびました。
９月12日(水)／南永井・吉田徹四郎さん宅

街かどズームイン Zoom in

▶皆さんからの「街かどズームイン」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内で▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「トレードマーク」▶企業の商標も意味しますが、今回は個人や団体を特徴づけるものの意味で▶チャップリンのひげや川上の赤バット、タモリのサングラスに猪木の「ダァー！」（？）▶ユニークな特徴を持った人やスターなど、お寄せください▶締め切りは10月16日(火)必着▶住所、氏名、年齢、電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木１-１-１所沢市役所広報広聴課「みんなの広場」係

▲市内の小・中学生イレブンが、ゴール目指して熱戦を繰り広げました。所沢市少年サッカー大会。
９月15日(祝)・16日(日)／市内各運動場

▲女優・日色とも桑さんが自身の体験を交えながら、平和の尊さを語りました。所沢市平和講演会。
８月30日(木)／ミューズ・キューブホール

無言のやられ役
上安松・中林　正彦

もう8年前。変わったロボットの開発をした。今はやりの格闘技の相手役をするロボットである。そのころはアマチュアレスリングの相手役ロボットであった。

この世界では、相手役はすぐほろぼろになる。したがって選手は思いっきり技の練習ができない。

人間のスタイルとは似ても似つかぬロボットであったが、バックドロップやひねりなどが思いっきりできる。何回、何時間やられっぱなしでも不平一つ言わない。

ただ、なぜかロボットが頭にきたとき（？）に、コンピュータが休憩するのには参った。

「あーん」のスイッチ
北秋津・関　裕枝

アルツハイマーが進行して食事の介助が必要になった父は、時々口を開けることを忘れた。

「あーんして」と言っても反応しないときは、指やスプーンで唇を少しつつくと、パッと口を開ける。まるで鳥のひなのようで。

「おじいちゃんは口を開けるスイッチが唇にあるんだよ」と子どもたちに教えると、「本当？おじいちゃんてロボットみたいだね」と言って、半ばおもしろがってお菓子やヨーグルトなどを口に運んでくれた。

父は他界したが、子どもたちは優しかったおじいちゃんとロのスイッチのことをいつまでも忘れないでいてくれると思う。

世の中を見て思う
東狭山ヶ丘・加藤　富美子

「あなたの望むロボットを一つ差し上げましょう」と言われたら、迷わず「子ども護衛ロボットをください」と頼むでしょう。

私は戦争中のことはわからないけれど、少なくとも私が子どものころに比べたら、今の子どもはあまりにも危険にさらされている。

学校の校庭で事件が起こり、学校の中で事件が起こり、公園で、そして登下校の通学路で、あらゆる所で弱い者たちはねらわれている。先日、息子は防犯ブザーを学校から支給された。それはきっともう苦肉の策だったのだと思う。

今の世の中は理解できない行動を起こす人間が多すぎる。ストレスが多すぎるせいなのか？いつか本当に子ども護衛ロボットが出現するかもしれない。

愛情ロボット
下安松・大橋　英敏

ロボット技術が非常に発達してきている。介護でいえば、技術が進んで間が介護するのとほとんど変わらなくなるかもしれない。

それならば介護人を介護するロボットはできないものかと思う。

介護人は直接病人を介護する。そこには、家族など、介護する人の手やりのぬくもりがじかに温かく伝わる。ロボットではそうはいくまい。愛情豊かな言葉も聞けないだろう。

介護人は病人を抱えたり、動かしたり、各種のお世話で自分のほうが参ってしまうことも多い。

この介護人を介護するロボットがあればと思う。

未来への期待
金山町・黒田　義正

58年前、任務で南方洋上を飛行中、パイロットがその当時先端技術のロボット操縦に切り替えた。

高度3千、暖かい日差しの機内に搭乗員3人。油断してうとうとした瞬間、機は積乱雲の頂上部に突入した。危うく空中分解かと思うほど、ガタガタと上下左右にものすごい振動。パイロットが操縦桿を押さえたが収まらない。幸いに2分くらいで通過した。

今のロボットは小型・軽量・精密であらかじめ設計されたプログラムで作動する。隔世の感の進歩。

でも、人手は省けるが、やはり管理・入力は人の技術と知識がないと運用されない。あくまで人が主、ロボットが従。地球に優しい科学技術であってほしいです。

「ジュフボ」
並木・斎藤　志津子

某電器メーカーの「アイボ」が初代の3分の1くらいの金額で売り出された。某車メーカーからは「アシボ」という人間型歩行機能補助装置ロボットが開発されたとのこと。わが家にも1台、主婦補助ロボット「ジュフボ」が欲しいと思う今日このごろ。

「アナタ、ショクジ、テキマシタ」、「アナタ、オフロ、ワキマシタ」という具合に…。

なんて考えていたら、「おい！何ぼーっとしているんだ。早く飯にしてくれ！」「キケッ。」

まじめな話、これから進む高齢化につけ、すぐれた看護・医療用ロボットが開発されたらと思う。

その一方で、健康を保つのも個人の責任と、最近は早朝より友達と一生懸命歩くことにしています。

操縦士の思惑
並木・横須賀　みどり

わが家にはハンサムなロボットたちが4台。操縦士の手元が怪しくなってきたせいか、ボタンを押すタイミングが合わなくなってきて、回路が壊れたみたいに好き勝手な行動をしています。

普段はバラバラのロボットたちも、操縦士が入院したときは合体して、炊事、洗濯、掃除と役割を分担、毎日様子を見に来てくれました。心の回路は正常のようです。

いつか必ず操縦をバトンタッチするときを夢見て、これからも軌道修正を繰り返し続けていくのだと思います。

日進月歩
久米・井原　喜一郎

私のロボットに対するイメージは、他人に操縦されて動く人、実力がなくて地位にいるだけの人というくらい。しかしながら、最近のロボットは違うようです。

自動車産業をはじめ、多くの産業にロボットが活躍し、その範囲はますます広がるばかりです。

また、別の面でロボットの人気が出ています。動物や人の形をした精巧なものが出現、その動作は限りなく本物に近くなり、茶の間のペットとしても人気急上昇です。価格も下がり、そのうちに子どもたちがお年玉で買えるようになるかもしれません。

もしかするとその前に、ロボットに操縦されている人間が現れるやもしれません。

スマイルアゲイン
松郷・石原　晃子

先日、「A・I・」という映画を見ました。見た目は人間そのものながら、心を持っている少年ロボットのちょっと切ない話でした。

でも、もし今の時代にこのような心のあるロボットがいたら…。

母のことが頭に浮かびました。おしゃべりが好きで、にぎやかでいろんなものに興味を持っていたのに…年々薄れてきました。

そんな母に優しい心を持ったロボットヘルパーさんやかわいいロボットの子ども、従順なロボット犬、魅惑的なロボット猫、おしゃべり好きなロボット鳥をみんなプレゼントしたいなあと。

そうしたらまた見られるかもしれない、はじけるような笑顔の母を。そして、私たち姉弟が子どもだったころのような楽しい日々が戻ってくるかもしれない！

はつらつ ところ野老っ子

中嶋　久夫さん
（三ヶ島在住）

大自然の瞬間の輝きを追い続けたい

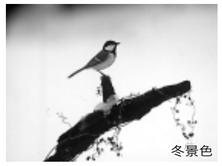
中嶋さんは、９月に東京・上野で開催された「第86回二科展」写真の部に入賞しました。全国１万数千点の応募の中から約400点の入選枠に、昨年に引き続き２年連続の受賞。ご本人の喜びもひとしおです。

写真を趣味にするきっかけは、学生時代にさかのぼります。何となく手にしたカメラでしたが、卒業論文の提出にあたり、写真熱が高まります。

「実のところは、写真でページを稼ごうという考えでして（笑）。でもたくさん撮ることで、レンズを通して写真の奥深さを知る、よい経験になりましたね。」

その後、10数年のブランクがあったそうですが、５年ほど前、姪（めい）の七五三の撮影に端を発して、再び本格的に取り組むようになります。以後、現在まで、四季の移り変わりを感じさせる、おもに自然を題材にした写真を撮り続けています。

「冬場の被写体の中心が野鳥です。わが家の庭先に機材をセッティングして撮影しています。今回の入選作品『冬景色』もそうなんです。春から梅雨時までは花を、秋には紅葉をテーマにカメラを向けます。去年の夏には花火にもチャレンジしてみました。」


冬景色

庭先の枝に舞い降りてきた鳥たちは、口笛を吹くと顔をこちらに向けます。中嶋さんいわく、「長年に渡り、そう仕込んである」とのこと。

そんな中嶋さんにとって写真の魅力とは…？

「言葉の通じないものを相手に、あれこれ演出を模索して、意図していたとおりに表現できたときの喜び。あの心地よさが最大の魅力でしょう。」

最後に、今後撮影してみたい対象や場所について尋ねると、「いつか余裕ができれば、アフリカに行ってみたいですね。観光でなく撮影を目的に行って、野生の動物たちを撮ってみたいんです。やはり自然の中で暮らす動物たちは、目の輝きが違いますから…」とスケールの大きな夢を語ってくれました。

取材終了間際、「あと、お嫁さんを募集中です。どうぞよろしく！」と照れながら話す中嶋さんでした。

ご覧ください

テレビ埼玉
所沢リポート
10月26日(金)／①午後5時30分～40分②午後10時15分～25分放映
『ところざわまつり』
シティケーブルネット
広報ところざわ テレビ情報館
10月18日(木)～／①午後1時55分～2時②午後9時55分～10時放映

広報テレビ番組

リサイクルふれあい館 不用品ガイド

●譲ります　▽ルームウォーカー▽木製セミダブルベッド▽テレビ（5インチ・14インチ）▽寝袋▽チャイルドカーシート（3歳児以上用）▽食卓3点セット▽ベビーシート（新生児以上用）▽和裁ゴテ▽電気オーブン▽机▽百科事典▽長方形こたつ

●求めます　▽円卓▽ファクス▽テレビ（21インチ以上）▽原付バイク▽自転車用子どもいす▽鼓笛隊用楽器▽電動式介護用ベッド▽足踏みミシン▽サーフボード

受付方法　電話による先着順で紹介します。5日が休館日の場合、翌日からの受け付けになります。利用者は所沢市民に限ります。

休館日　月曜日、祝休日

申し込み・問い合わせ　リサイクルふれあい館（☎944-0008）

誰でもエッセイ

テーマ“ロボット”